



Face to Face

NO.6

特定非営利活動法人 T I C O

チベンビ地区農村開発プロジェクト アグロフォレストリー

TICOはチベンビ農業大学と協力し、荒れ果て、やせ細った土地の地力回復をはかる農法に取り組んでいる。豆科の植物を植えることで土壌に窒素を固定し、肥料のいらない画期的な農法だが、結果がすぐに現れるものではない。2003年11月から取り組んだこの事業、地道な活動が実を結び、徐々に農民の間に普及しつつある。

今回のワークショップには、カルブウエ地区のメンバーも5名参加。TICOが支援する、異なる地域間の連携は、これが初めてのケースだ。こうした連携は、これからも沢山生まれて欲しい。



既存と新規小規模農民40名強でワークショップ実施

カルブウエ地区菜園プロジェクト ボアホール（深井戸）故障 絶体絶命

10月11日、井戸のポンプが突然故障。原因は井戸内部の土が崩れ泥が詰まったことによる故障と判明。これは、この井戸が使えないことを意味していた。

乾季の真っ只中、雨は期待出来ない。菜園の作物が死滅するのは必至だ。これまで農民たちが、総出で開墾し、助成金を得て灌漑システムを導入し、使用方法や野菜の育て方をトレーニングしてきた。その全ての努力が無駄になる大ピンチ。当面は、大きなタンクを購入し、近くの外国人が経営する農園から水をトラックで運ぶことで乗り切ることにした。しかし、根本的な解決には井戸が必要だ。井戸1つ掘るにも約50万円というが、迷っている時間はなくボアホールの掘削が始まった。



ボアホール（深井戸）掘削風景

<主な記事>

- ・ **もう一つの生活習慣病、地球環境問題**
- ・ **ザンビアスタディツアーの感想**
- ・ **「カルブウエ地区菜園プロジェクト」～悪戦苦闘中！～**
- ・ **チベンビプロジェクト情報**
- ・ **ヒダノ修一・チャリティーコンサートチケット販売中**

ティコ

TICOは保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っているNGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために1993年に任意団体として設立、2004年9月に特定非営利活動法人（NPO法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

毎日多くの高血圧、高脂血症、糖尿病など生活習慣病を診ている。患者さんのほとんどは今のところ痛くも苦しくもない。従って、危機感に乏しく、生活を改善しようとしなことが多い。テレビを見ながら、美味しいものを満腹になるまで食べ、ドアからドアへ自動車で移動する。しかし、放置すると脳卒中などを引き起こす可能性が非常に高い。

地球規模の環境問題は、生活習慣病と類似している。我々豊かな国の人間は、今のところ痛くも苦しくもなく、危機感に乏しい。砂漠化や大旱魃は、遠い外国で起こっており、直接関係ないように思っている。しかし近い将来、日本にも多大なる影響を及ぼすことは確実であろう。

人類が抱えている地球環境問題の大部分は、まさに豊かな国の大量消費の結果である。先進国は、自然を破壊しながら生産された資源を輸入し、大

量消費し、ゴミの山を築き、温暖化ガスを放出している。我々は知らない間に巨大な消費社会に組み込まれ、一見快適な暮らしをしている。日本人の消費は今や世界中とつながっているのである。

先に同じ意味のことを述べた。「テレビを見ながら、美味しいものを満腹になるまで食べ、ドアからドアへ自動車で移動する」である。生活習慣病の原因となる便利で楽な暮らしは、地球規模の環境問題にもつながっている。言い換えると、生活習慣病を改善することは、地球環境を改善することでもある。

自らの手足を動かし、不必要な消費を抑え、地域で手間をかけて安全な食糧を生産し、地域で消費するということになる。また、外国のものを消費する場合（輸入）は、自然を修復するための経費を含めた公正な代金を、非常に弱い立場の生産者に支払うべきである。

ザンビアスタディツアーの感想

川崎 訓 (かわさき さとし)

このスタディツアーは、はっ、と目が覚めるような気づきの連続だった。

蛇口から好きなだけキレイな水が使える、暗くて不便ならスイッチを押すだけでいい、事故にあえば救急車が駆けつけてくれる、病院にいけば満腹に治療が受けられる、明日の計画を難なく考えられる。わたしにとっての当たり前前は、当たり前なんかでは全くなかった。結局それは、日本に住む「わたし」達にのみ当たり前のこと。そんな当たり前のことに痛いほど気づかせてくれた。そして、華やかに見える国際協力の現場の現実。こんな短時間で偉そうなことは決して言えないけれど、少しは目の当たりに出来たように思う。例えば、最近の開発に関するテキストを見れば、「参加型開発」の素晴らしさが満載だ。現地の人々の目線にたって一緒にプロジェクトを進めれば、簡単に成功につながるかのように聞こえる。今日を生きるのに精一杯の人々にとって、先を見据えた計画に参加することがどれほど大変なことかはなかなか書かれていない。いくら現地の人々のために何かしたい、と思っても、彼らの要求にただやみくもに responding していくだけでは何にもならない。プロジェクトのためには、彼らに変えてもらわないといけない伝統や習慣もあるだろう。現地の人々と共に歩いていく、ということの大変さ、これを知れたことをとても貴重に感じる。

なかなかの多忙ながら、多くを見、学ばせて頂いたスケジュールだったが、TICOの支援先の農村でのホームステイ、これは何もものにも変えがたい経験となった。ステイ先の方々には、本当に多くのことを教わった。何気ない日常の話をぐだぐだと。レクチャーかと思うような真剣な政治の話をながながと。夜は遅くまで嘘みだいにきれいな星をみながら、朝は早くから顔をだした朝日を迎えながら、たくさんのおしゃべりした。言いたいことがうまく通じずに、もどかしく感じた沈黙の一つ一つでさえ忘れられない。電気も水道もガスもない、実際のザンビア人宅での滞在。ほんの少しの間でも彼らと同じものを食べ、同じ生活を送るなんて、ザンビアに行っただけの体験はない。体全身、自分の全部で、ザンビアを感じとれた。素晴らしい時間が過ごせた、心からそう思う。

さて、スタディツアーを終えた今、疑問が残っているのが正直なところ。「自分に何ができるのか。自分はこれから何をやるのか。」それはこのツアーへの参加動機であったはずの問いでもある。開発に携わりたい、かかわっていきたく、と考えるものの、イメージがわかず、現場を実際に見、感じてその答えを見つけない。それがツアーに参加した理由の一つだった。結局は解決できずにいる。けれども、同時にその問いに、ほんの数週間前よりイキイキと向き合える自分にも気づく。このツアーに参加できて本当に良かった。

ありがとうございました。



WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 江橋裕人

WAHE (ワヘ) とは？

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウエに決定した。



Chipemba

中央州チペンビ地区

中央州カルブウエ地区

Karubwe

ザンビア共和国

カルブウエ

菜園プロジェクト

本格的に始まった野菜作り。でも栽培を巡って技術・管理不足が問題に。そんな中、ポンプの故障で井戸水が使えないアクシデント発生！水輸送で急場を凌ぎます。

8月26日(金)

トマトに薬をきちんとまくように確認がされた。薬散布用スプレー(2004年に支援)が足りないの欲しいとの声が出たが、ケニスが効率良く使えば大丈夫と却下。ケニスは「くれくれ」とは言わない。

8月30日(火)

本日は参加型手法(PLA)ワークショップ。議論は白熱するが、どうしても文字を書ける男性が中心。



9月9日(金)

良く育っている。タンクから



菜園を見渡しても緑が目立つようになってきた。嬉しい。

9月16日(金)

問題なく育っている。報告はグループ毎に記載され、会計報告もきちんと記載。関わり続けて約1年半、やっとここまで。

9月23日(金)

PLAワークショップ。自分の生活を見直し、労働状況はどうか等を視覚的にも認識してもらい、問題点をあぶりだす狙い。



9月30日(金)

定例ミーティング。経理報告。紙に書くようにはなったが、計算ミス含めて間違いだらけ。野菜売り上げお金管理も問題になる。ルール作りが必要。

10月7日(金)

2ヶ月前から言っている動物よけワイヤーがまだ。トマトにもキャベツにも害虫発見。水の



管理もなっていない。

10月8日(土)

水管理に関するワークショップ。灌漑の基本的考え方をおさらい。限りある水資源を活用して欲しい。

10月12日(水)

ソーラーポンプが故障と連絡が入る。モーターが泥詰まりでポンプ故障、修理不可能と判明。

10月13日(木)

故障したポンプの代用品を使うには、新たに20万円程かかると判明。井戸状況が不確定な中、そんな投資は不可能。業者にポンプテストをやらせ、再使用可能かチェックすることに。

10月14日(金)

ルサカからカルブウエへ水ピストン輸送決意。ある農家がため池の水を無料でくれることに。ありがたい。6400リットル本日確保。通常の3分の1程度。全滅は避けられると信じてたい。



10月19日(水)

水ピストン輸送中。オクラが順調。売り先確保が最重要。

10月25日(火)

オクラ・トマト・メイズには水をやるが、それでも不十分。トマト収穫開始。全体的に小粒。病気にやられているのも多い。どうしてこうなったか、考えさせなくては。



10月26日(水)

井戸掘り開始。しかし、ドリル部分の絶対必要部品を忘れた事が判明。つまり今日は何もできない…。ここはザンビア。こういった苦労はつきまとう。明日仕切りなおし。水ピストン輸送は続く。

10月27日(木)

井戸掘り作業中ドリル先端を底に落とし作業中断。拾えないらしく、穴を変える必要あり！しかも代えをルサカに取りに戻

るといふ。新しい部品到着を待ち、掘り進んで18メートル過ぎで水も噴出し一安心。すると今度はコンプレッサーのオイル漏れがひどく作業中断。こんなトラブルばかり。本来ならばもう終了していたはず。

10月28日(金)

作業遅れが甚だしいことをケニスと協議。彼も悩んでいる。やる気の無い奴は辞めさせても良い、など過激な意見も出る。荒療治も必要かも。特にトマトがこのままワイヤーも張らず、きちんと薬も与えず、雑草も取らずでは勿体無い。

10月29日(土)

井戸にプレッシャーをかけて泥水を全て出す作業開始。徐々に透明な水へと変化。

11月2日(水)

井戸は一段落したが、ポンプ搬入がまだなので水ピストン輸送が続く。先日ケニス一人の交渉では安く叩かれたため、DCC(ルサカのNGO団体)へトマ

トとオクラの値段再交渉に。とにかく売り先を確保しないことには始まらない。



11月7日(月)

本日はソーラーポンプ搬入予定日。曇り空ながらポンプはしっかり作動。これで水ピストン輸送は必要なし。苦節一ヶ月が終わった。安心して眠れる。

11月8日(火)

水は一件着着だが、スタンド補強が必要な為、溶接機と発電機を持参して修理。1時間に2500リットル以上汲み上げていて、以前よりパワフル。ポンプが新品だからそんな印象を受けるのか。

チペンビ

・農村開発ローン



小規模農村開発ローン

現行の小規模事業にはすべて日本人サポーターが付きましました。中には返済を終了し、自立に向けてスタートしたグループも。

8月31日(水)

ギルモア訪問。感謝の手紙を受け取る。

チレンガレサ訪問。食用油購入。

Mr.ンジョブ訪問。チティベの案件を確認。自分達で店を作り

始めることを条件に支援する。

カリケンカ訪問。店はきちんと営業されている模様。

8月総括～調整員より

ギルモア：管理運営はきちんとされるも、授業料を払えない親が多い、という一朝一夕には片付かない貧困問題がある。

カリケンカ：記録もしっかり付け、売り上げも順調。時々品薄が気にかかる。

9月7日(水)

Mr.ンジョブ訪問。チティベ確認。古着販売建物用レンガを作り始めたとの事。

カリケンカ訪問。8月分売り上げサマリーを受け取る。純益40万クワチャ。頑張っている。

9月14日(水)

カリケンカ訪問。品物を届ける。棚も綺麗に揃えられている。



ギルモア訪問。今日は少なかったが子供は元気。



チレンガレサ訪問。食用油購入。

9月19日(月)

チティバワークショップ参加。Mr.ンジョブも何度もワークショップをやっているのだから慣れている。



9月28日(水)

チティバ訪問。建物は8割方完成。10月3日、ルサカで古着を仕入れる。



9月総括～調整員より

ギルモア：子どもの学力は確実に向上。しかし貧困、早魃による農業不作で親が授業料を払えない現実。将来的に根本的対策の必要あり。

カリケンカ：運営は順調。品薄が気にかかる。

10月5日(水)

チレンガレサ訪問。食用油購入。

ギルモア訪問。9月分集金。

あと一回で返済完了。



カリケンカ訪問。9月分集金。

10月7日(金)

カサカ訪問。雛を届ける。水とミルミル(とうもろこしの粉)を与え、ヒーターで温度維持して夜を越えた。一羽も死なず、104羽でスタート。



チティバ訪問。古着を広げていた。注目を浴びている内にガンガン売って欲しい。

10月12日(水)

カサカ訪問。養鶏確認。2羽死亡。換気が悪い。暑さのせいかな。

10月19日(水)

カサカ訪問。雛から鶏になってきた。この一週間で死亡なし。

チティバ訪問。古着販売店営業中。問題なくやっている模様。



10月26日(水)

カサカ訪問。この一週間死亡

なし。鶏になってきた。今後のプラン確認。やる気になってきた模様。以前の消極性が嘘のよう。



Mr.ンジョブ訪問。小規模ローンプロジェクト調査依頼。養豚確認。

10月総括～調整員より

ギルモア：どの親も概して家計が苦しい。教育より食えることが先決、収入がなければ教育も意味なしと感じる気持ちは理解できる。

カサカ：メンバー10人中6人のみ実質参加。しかし管理運営は滞りなく行われている。

カリケンカ：日本のコンビニに慣れているためか、品薄が常に気にかかる。

チティバ：自ら店の立地を決め、営業を始めたのは評価に値する。店のスペースが狭いため、できれば広げたい。

11月2日(水)

Mr.ンジョブ訪問。養豚確認。ルサカで豚見積もりを確保。

ギルモア訪問。最後の集金だが、お金集まっておらず。授業料を払ってくれる親が集まらず、経営は苦しい模様。移転も検討。

カサカ訪問。すっかり鶏らしくなった。死亡もない。マーケット対策をけしかける。

カリケンカ訪問。集金。品数が減っているが明日はルサカで仕入れるらしい。



11月9日(水)

Mr.ンジョブ訪問。悲しい知らせを受ける。ローンプロジェクト立ち上げ時から関わったナムコボ氏死去。55歳位。糖尿病と低血圧が原因らしい。死は余りに身近なニュース。

カサカ訪問。鶏死亡なし。来週が売れ頃。まだ売り先確保をしていないので再度けしかける。



カリケンカ訪問。先週する筈だった買出しをしていない！かなり品薄。売り物が無くては始まらないのでけしかける。

アグロフォレストリー

やせ細った地力の回復のため、チペンビ農業大学と協力し、配布を始めた豆の種。受け取った農民の数も増え、着実に広まっています

8月31日(水)

クムウェンダ氏訪問。支援用メイズ種60キロを渡す。

9月17日(土)

ワークショップ参加。既存プラス新規小規模農民40名強で実施。カルブウェからも5名参加で経験シェア。確実なTICO活動の広がりを感じる。

9月21日(水)

クムウェンダ氏訪問。依頼していた資料を受け取る。

9月28日(水)

クムウェンダ氏訪問。Velvet beansを受け取った人数は70人(15村)にも達す。5人優秀な農民にモニタリングさせる方法を検討中。

10月5日(水)

クムウェンダ氏訪問。モニタリング要員トレーニングを相談。

10月26日(水)

アグロフォレストリー視察。農民をモニタリングする5人のベスト農民を選んでトレーニング。無遅刻、無欠席で定刻どおりスタート。真剣味を感じる。



11月9日(水)

クムウェンダ氏訪問。モニター用自転車、雨具などの受け渡し調整。

カノンゴディップタンク

壊れたまま放置されていた牛消毒用の薬浴槽(ディップタンク)の復活も最終段階に。カノンゴディップタンクついに完成!

9月7日(水)

作業は進んでいるが、遅い。雨季に間に合うか疑問。

9月14日(水)

思ったほど進まない模様。Mr.テンボがこんなことではいけない、協力して進めなくては、と指導を入れる。



9月21日(水)

タンクはほぼ形が作られており、後はプasterをかけて上部に屋根を付けるのみ。

10月12日(水)

大体完成。残りは屋根をつけるくらい。予定通り雨季に間に合いそうで一安心。



10月19日(水)

最後のセメント4袋渡す。8割方完成。残りは細部と屋根、有刺鉄線張り。Mr.テンボの指示では来週には水が入っている。

10月26日(水)

かなり進んでいてほぼ完成。しかし屋根資材が足りない。



11月9日(水)

Mr.テンボと同行。3枚足りない屋根資材を除いて完成。サイズは15,800リッター。薬液を一回目のみ支援で、今後は運営費から捻出。来週金曜日からディップ開始。

TICO 国内活動

(2005年9月1日~2005年11月15日)

<2005年9月>

- 16日 日本救急救助技術支援会(JPR)設立総会出席
(吉田修代表・福土事務局長)
- 17日 地球人カレッジ「ザンビアとスリランカからの直訴」
(アンドレア・ステファンソンさん・ジャヤスリヤ医師)
- 20日 木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣(吉田修代表)
- 24日 ZooZooAngelo(高松)へ講師派遣(吉田修代表)
- 26日 とくしまNPOフォーラム会議出席(福土事務局長)

<2005年10月>

- 4日 木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣(吉田修代表)
- 7日 吉野川市立山川中学校へ講師派遣(吉田修代表)

- 22日 地球人カレッジ「ワールド・ビジョンが目指す開発
~Transformational Development~」
(戸代澤真奈美さん)
- 27日 外務省主催 NGO 研究会(マラリア対策)参加(吉田
修代表・田淵幸一郎会員)

<2005年11月>

- 1日 鳴門市立第一小学校へ講師派遣
(福土事務局長・西口三千恵さん)
木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣(吉田修代表)
- 3日 わらびの会のゆず畑草刈りへボランティア派遣
- 9日 外務省主催 NGO 研究会(マラリア対策)参加(田淵
幸一郎会員)
- 10日 五十嵐仁さん(救急救助プロジェクト担当)ザンビ
ア事務所へ再赴任
- 13日 わらびの会ゆず狩り

TICO国内活動報告

地球人カレッジ

「ザンビアとスリランカからの直訴」

(9月17日)

ザンビア地域警察救急救助隊管理委員会委員長の
アンドレア・ステファンソンさんが、ザンビアで
の救急救助隊の現状について報告。ルサカ市の民放
TV局が救急活動を番組として放映していること
などを紹介しました。

スリランカ・ゴール市保健衛生部部長のジャヤス
リヤ医師は、2004年12月に起こったインドネ
シア沖地震に夜津波被害の現状を報告し、支援を呼
びかけました。



「ワールド・ビジョンが目指す開発 Transformational Development」

(10月22日)

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の戸代
澤真奈美さんを講師に迎え、始めに同団体の活動理
念や目標を紹介。次にマラウイ共和国で実施中の
HIV/AIDS 対策活動の現状について報告があり、最
後に「WVのマーケティングにおける考え方」と題し
、活動資金獲得のアイデアを示してくれました。
TICOとしても、とても参考となる内容でした。

ゆず狩り

徳島県美馬市木屋平のボランティアグループ
「わらびの会」主催で11月3日にゆず畑草刈
り、13日にゆず狩りを行いました。

晴天のもと、ゆず狩りは約30名の方に協力
していただき、無事収穫することができました。
ありがとうございました。

収穫したゆずの収益金はザンビアでのTICO
の活動に使われます。



※次回の地球人カレッジは2006年1月の予定です。

ありがとうございました（敬称略）

★寄付をくださった方々★

五十嵐仁 江橋裕人 高木クニ子 西尾正己 山田
絵美 尾崎富美子 戸井様 大津和子 宮森健輔
トチ丸文 中西明日香 光野佳代子 城西高等学校
JRC部 瀬尾規子 山川中学校ボランティア部
さくら診療所 橋本伸子 三村和生 五十嵐久美子
酒巻嘉明 白石吉彦 山岡智互 ジャスコ徳島店
木屋平中学校 美馬安子 本郷ちぎり絵教室

★会費を継続して払ってくださった方々★

秋月益子 井内誉範・晴子 井口千陽 遠藤千鶴 鏡
登志子 久保真一 篠原幸隆 白石吉彦 砂田節子
中川公輝 中川敏代 中谷加奈子 檜みどり 松田
恵美子 矢野祖 渡部豪 中野貴志 東條昭子

★新たに会員になってくださった方々★

山本博子 岡久知弘 長地孝夫 長田有加里
（2005年9月1日から2005年11月15日
までの事務局入金分：順不同）
※お名前を非公開にされたい場合はTICOまでご
連絡ください。

【TICO への入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポート
して下さるかたを募集しています。入会ご希望の方
は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。イ
ンターネットの TICO ホームページからも入会申し
込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター
『Face to Face』を毎月送付いたします。

【正会員】 12,000 円

【賛助会員】 個人：12,000 円 学生：6,000 円
団体：15,000 円

（通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権
を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

振込先：郵便振替口座 01640-6-37649
振込先加入者名：TICO

Eメールアドレスをお知らせいただいた方にはT
ICOの各種イベント情報をメールにてご連絡申し
上げます。

TICOの活動は皆様からの会費やご寄付によっ
て支えられています。会費の納入がお済みでない会員
の方は、納入下さいますようお願いいたします。なお、郵
便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いた
だけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いい
たします。

和太鼓聞いて国際協力？

チャリティコンサート

チケット販売中！

2002年サッカーワールドカップ決勝戦セレ
モニーで和太鼓ソロ演奏を行ったヒダノ修一さん
によるチャリティコンサートを12月18日(日)
午後2時より、吉野川市山川町にある吉野川市ア
メニティセンターにて開催いたします。

今回は共演者に時勝矢一路さんをお招きし、和
太鼓奏者2人によるコラボレーションで迫力ある
パフォーマンスをお楽しみいただくとともに、収
益金は、ザンビア・ルサカ市の救急救助隊と津波
からの復興に取り組むスリランカ・ゴール市の支
援を目的とした消防車と救急車の輸送費に充てら
れます。チケットの購入は、TICO 事務局または、
ローソンチケットで購入出来ます。

お知らせ

●講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際
理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっていま
す。お問い合わせはTICO事務局まで。

●ご寄付のお願い

気が向いたときに少しでも寄付したいとい
う方は、下記の口座で寄付を受け付けています。
あなたの想いを必ずザンビアまで届けます。

TICOホームページで TICO からの最新情報をご
覧いただけます！！

<http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/>

募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています
（事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい）

郵便振替口座：01640-6-37649 振込先加入者名：TICO

四国銀行 山川支店（店番号344）普通預金 0199692
特定非営利活動法人TICO 代表理事 吉田修（トクヒ テイコ）

TICO ニュースレター Face to Face 第6号 2005年12月発行
【TICO 事務局連絡先】

発行人：吉田 修 編集担当：福士 庸二

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 212-6 電話：090-7786-3193 / FAX：0883-42-5527

TICO ホームページ：<http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/> e-mail：zikomo@nmt.ne.jp